

素朴だが実力ある学校

今週2校訪問した。

小学校と中学校である。

業務で校長先生に用事があった学校と授業研究で訪問した学校だ。

今年、両校とも良いことで新聞に記事が出ていた。

小学校は、伝統ある学校で校舎もなかなか年季が入っている。継続的に金沢の伝統工芸を教育活動に組み込んでいる。地域の伝統的な活動を学校活動に取り入れることは以前全国的に流行になった。時間経過とともに消滅していく中、この学校は地域とともにがんばっている。校長先生も新しいことに取り組むこと以上に、先生方を信じ、どっしり構え安心感がある。そして、子供たちに人として大切なことを折々話しているようだ。

中学校は、山間部の小規模校だ。もともと生徒は純朴で素直であるが、先生方が生徒としっかりと触れ合い、丁寧な指導ができていて、校長先生が率先して、自学ノートの取り組みを先導している。塾もなく、学校で学ぶことが唯一である生徒が多い中、〇〇テストの成績はなかなか良いようだ。授業を見せてもらった先生は、特に目新しいことはしていませんが、といいながらも、生徒は自然と『アクティブラーニング』行っていた。

両校とも、校長先生は3月でご退職の様。教員としての学校での子育ての総決算ができそうである。現在、様々な取り組みがあり、その情報が飽和状態である。しかし、学校教育の基本は、実は地味で伝統的で継続的なものかもしれない。

私にとって学びの多い貴重な訪問であった。